

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達成目標)	プロジェクト目標：妊産婦が適切な保健サービスを楽しむ。 (今期事業達成目標) ①保健所のサービス提供環境が改善し、②保健所スタッフ・保健ボランティア・伝統的産婆の能力が強化され、③住民への母子保健教育が拡充する。 【プロジェクト目標の達成度】 プロジェクト目標の達成度を測る5つの指標のうち、2年次にのみ関係するものを除く3つの指標に関する成果は以下のとおり。2つが達成、1つは達成途上にあるため、プロジェクト目標は概ね達成できた(当該プロジェクトは2年継続事業の1年目)。 指標1：山間部の保健所が管轄する妊産婦の病院または分娩施設での出産が70%に増加する。 ＜達成途上＞ 山間部の保健所7か所が管轄する地域の2020年3月から2021年2月までの施設分娩率は56.0%（施設分娩201件、コミュニティ分娩158件）と、前年の同期間の数値（58.2%）を若干下回った。これは新型コロナウイルス感染症の影響で保健所や病院での出産を躊躇した妊婦が少なからずいたこと、また、11月に同国を襲ったハリケーンによる被災が重なったことなどが原因と考えられる。一方、市内中心部にあるテウパセンティ保健所が管轄する施設での分娩率は90.4%（施設分娩198件、コミュニティ分娩21件）と、前年同期（81.3%）より増加した。山間部と比較して、病院、情報源へのアクセスが良く、不安を抱いたままの住民が少なかったものと思われるが、施設分娩の必要性に関する認識が着実に広がっていることがうかがえた。 指標4：産後健診受診率が35%に増加する。 ＜達成＞ テウパセンティ市内8か所の保健所から入手したデータによれば、2020年3月から2021年2月までの産後健診率は82.4%（産後健診数は476件）と、前年同期（65.0%）と比べて大幅に増加した。テウパセンティ保健所を除いた山間部7か所の保健所においても60.7%と、前年同期（50.4%）より増加した。本事業の啓発活動による成果に加え、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、山間部の保健所3か所（プランシートス、スヤタル、サン・イシドロ）に医師が配置されたことで来所数が増えたものと思われる。なお、申請時の目標数値に誤りがあったため、2年次に改めて目標値を設定する。 指標5：危険兆候のある妊産婦が発見され、上位医療機関へ適切にリファーされる ＜達成＞ 本事業で超音波診断装置使用方法研修を実施したテウパセンティ保健所とオコタル保健所から、前置胎盤や羊水過多、逆子などの危険兆候が認められた妊婦80人が上位医療機関へリファー（受診紹介・転送）されたことが確認された（テウパセンティ保健所71件、オコタル保健所9件）。月平均リファー数は前年の4.6件から6.6件へ増えており、必要性に応じた的確な判断を受けてリファーされるようになってきたものと考えられる。

(2) 事業内容

2020 年 3 月 1 日に開始した本事業は新型コロナウイルスの確認・拡大と時期が重なったことから、活動方法やスケジュールの変更を余儀なくされたが、マスクの着用、手指消毒の徹底、1 回の参加者を極力 10 人以下に抑える、参加者同士の距離をとるなどの適切な感染予防対策を施した上で、以下の活動を実施した。

1. 保健所の環境改善

【1-1】保健所に必要な医療機器・器具、設備を整備する。

保健所が適切な保健サービスを提供するための環境整備として、以下の支援を行った。

	保健センター名	支援（供与）内容
1	テウパセンティ	オートクレーブ、電圧安定器、乳幼児身長計、乳幼児体重計*、避妊具、椅子、鍵付きロッカー、創傷処置セット
2	プランシートス	洗面台の設置、資材（屋根・天井修復用）**
3	バル・パライソ	ペンキ（外装用）
4	ポトレリージョス	机、椅子、整理棚、ペンキ（外装用）
5	サラディーノ	机、椅子、整理棚、乳幼児身長計*、乳幼児体重計*、ペンキ（外装用）
6	オコタル	ペンキ（外装用）*
7	スヤタル	資材（屋根・天井修復用）**、太陽光発電用バッテリー**

* 2021 年 2 月 8 日変更報告済 ** 2020 年 12 月 2 日変更承認済

また、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、各保健所から感染対策用品の支援要請があった。保健所スタッフの安全と安心を確保すると同時に、妊婦の保健所訪問への不安を軽減し、母子保健サービスの利用をこれまで通り推奨することが本事業目標の達成に不可欠であることから、対象地域の 8 か所の保健所に感染予防のための物資（マスク・アルコールジェル・非接触型体温計）を供与した（2020 年 9 月 23 日変更承認済）。

2. 保健所スタッフの能力向上

【2-1】妊産婦・新生児緊急時対応研修内容を策定する。

市内 8 か所の保健所スタッフに対する研修として、本国保健省の CONE（国家周産期・新生児ケア）に沿う形で、妊婦健診と新生児ケア、既往のある妊婦への対応プロトコール、母乳育児の重要性、乳幼児の呼吸器ケア、先天性異常のある新生児の対応などをテーマとする内容を策定した。また、新型コロナウイルス対応として外来の重篤患者を把握するため、呼吸状態、バイタルサイン、全身の観察方法も研修内容に含めた。なお、当初は全 10 日間の研修を予定していたが、コロナ禍ならびにハリケーンによる被災の影響を受け、平時の医療体制の維持に配慮し、テウパセンティ保健所長と協議の上、研修日数を 6 日間に短縮して実施した（2021 年 2 月 8 日変更報告済）。

【2-2】妊産婦・新生児緊急時対応研修を実施する。

活動 2-1 で策定した全 6 日間（3 日間×2 回）の研修を 2020 年 12 月に実施し、8 か所の保健所から 24 名の医師、看護師が受講した。日程は短縮したが、事前にマニュアルを

共有して課題を出すなどの工夫により、必要なテーマを全てカバーすることができた。

【2-3】超音波診断装置使用方法フォローアップ研修を実施する。

テウパセンティ保健所及びオコタル保健所の医師6人、看護師1人に対し、全9日間（3日間×3回）の超音波診断装置使用方法に係る研修を実施した。当初は2回の実施を予定していたが、昨年受講したテウパセンティ保健所の医師3名が異動となり、代わりに超音波診断装置を使用した経験のない医師が配属されたため、彼らへの基礎技術研修を実施してほしいという同保健所長からの強い要請があり、復習を兼ねた基礎技術研修を1回追加し、全3回とした（2021年2月8日変更報告済）。

研修では画像診断の専門医師を講師として招き、1日目は座学（超音波診断装置の構造や機能、使用方法や画像の見方）、2日目以降は実技演習を行った。演習では142名の妊婦の協力を得て、胎児の大きさのはかり方、出産予定日の決定、前置胎盤など危険兆候の見つけ方などを、講師の詳細な説明を受けながらの実習とすることができた。

【2-4】上位保健医療施設へのリファラルに係るコミュニケーションを強化する。

新型コロナウイルス感染症の拡大とその対応により、関係者が集える機会を設けられずにいたが、2021年1月26日に市長代理、赤十字代表、保健所長との会合を持つことができた。当日は救急体制の現状と課題、強化について協議し、以下の対応策が合意された。

	現状・課題	対応策
1	・緊急連絡先が統一されておらず、第一報が遅れて救命処置が不利になる。 ・赤十字への通報が保健所に共有されておらず、搬送先での対応が遅くなることがある。	市で共通の緊急番号をもち、情報管理を一元化するとともに、救急処置の迅速化を図る。
2	妊婦が病院に行く手段が不足している。	市役所で公共交通機関の見直しと道路整備などのインフラ整備を検討する。
3	救急車両のメンテナンス不足により、稼働していない車両がある。	救急車両の整備支援を市が検討する。
4	一次救命処置を行える人材が不足しており、適切な対応ができていない。	・保健ボランティアなどに対する研修の実施に向けて、各機関で調整する。 ・研修実施費用を支援してくれる先（ドナー）を探す。

3. 保健ボランティアの育成

【3-1】対象村で保健ボランティアを選定する。

6月に山間部にある7か所の保健所（オコタル、ポトレリージョス、スヤタル、サラディーノ、サン・イシドロ、プランシートス、バル・パライズ）を訪問して現状を確認し、登録されていた保健ボランティア合計69名を育成対象とすることを決定した。

【3-2】対象村の保健ボランティアに対し研修を実施する。

7月から合計6日間（1日×6回）の研修を各保健所で実施した（2021年2月8日付変更報告済）。テーマは1. 保健委員に求められる役割とウイルス対策、2. 妊産婦の危険兆候、3. 一次救命救急と応急処置、4. 妊娠初期の超音波検査の推奨、5. 家族計画、6. 産前産

後健診と施設分娩の重要性の6つとし、1テーマにつき平均65人が参加した。研修の実施にあたっては、保健ボランティアと保健所が良好な関係を築くこと、事業終了後も保健所スタッフが研修を継続していけるようになることを目指し、内容の一部を保健所スタッフに担当してもらうなど工夫した。また、保健ボランティア用のTシャツを配布し、活動の際に着用してもらうことで、自尊心や協調性を高められるよう努めた。

【3-3】保健所と保健ボランティアの会合を実施する。

新型コロナウイルス感染症の影響により集会が制限されていたことから、保健所での毎月の会合は研修と同じ日に設定して実施した。会合では、保健ボランティアと保健所が協力して行う妊婦クラブの計画・実施の調整をはじめ、保健所でのイベントや休診日のお知らせなどの情報や課題を共有することができ、連携強化が進んだ。

4. 伝統的産婆の育成

【4-1】伝統的産婆への研修内容を策定する。

市内で存在が確認された伝統的産婆40人のうち、36人（プランシース3名、サン・イシドロ5名、スヤタル2名、サラディーノ3名、オコタル7名、バル・パライス5名、テウパセンティ10名、ポトレリージョス1名）が研修参加を表明した。村から施設への適切なリファーにつながることを主目的とした研修として、1. 伝統的産婆に求められる役割とウイルス対策、2. 妊産婦の危険兆候、3. 緊急時の出産介助と正しい手洗い、4. 段階別出産時の対応、5. 産前産後健診と施設分娩の重要性、6. 妊婦訪問の重要性の6つのテーマを、保健所スタッフとともに策定した。

【4-2】伝統的産婆へ研修を実施する

36人の伝統的産婆に対し、活動4-1で策定した6つのテーマに関する研修（1日×6回）を実施し、1テーマにつき平均30人が参加した。事業終了後も保健ボランティアと伝統的産婆の良好な関係が継続するよう、保健所スタッフに研修の一部を実施してもらうなど工夫した。また伝統的産婆に活動用のTシャツを配布し、意欲の向上に役立てた。

【4-3】保健所と伝統的産婆のコミュニケーションを強化する。

保健所と保健ボランティアの毎月の会合に伝統的産婆も参加し、情報共有することを計画していたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、同会合への伝統的産婆の出席を見合わせた。代替案として、伝統的産婆への研修の機会を利用して両者のコミュニケーションを促し、妊産婦健診の情報や保健所における問題点や改善点の共有を図った。

5. 安全な周産期に関する啓発活動

【5-1】保健所とともに妊婦クラブの内容を策定する。

妊婦クラブの開催について、市内8か所の保健所長と協議し、基幹保健所であるテウパセンティ保健所については、妊婦クラブの開催を見送ることとした（2021年2月8日付変更報告済）。これは新型コロナウイルス感染症の影響で外来患者の増加が懸念されることを考慮したものである。その他の保健所では開催することとし、1. 感染症対策、2. 妊産婦の危険兆候、3. 妊産婦の栄養摂取、4. 妊婦における出生前ケア・出産計画、5. 性感染症、6. 妊娠初期のエコー検査推奨の6つのテーマを策定した。また、教材として出産準備に必要なものや妊娠中の危険兆候を伝えるパンフレットを作成、配布したほか、妊婦クラブへの参加を推奨するポスターおよび家族計画に関するマニュアルを作成し、保健所に配

布した。

【5-2】保健所で妊婦クラブを充実させ、継続的に実施する。

山間部の7か所の保健所およびテウパセンティ保健所の下部機関であるペドリオ保健所において、合計42回（各保健所4～7回）妊婦クラブの会合を開催し、延べ328人の妊婦と14人の配偶者が参加した。作成したパンフレットやマニュアルを活用し、活動5-1で策定したテーマに関する研修を行った。

【5-3】保健所スタッフと連携し、保健ボランティアが妊産婦をはじめとする住民への啓発活動、保健教育などを行う。

各地域の保健ボランティアが保健所スタッフと協力し、妊婦及び一般住民への感染症対策、妊娠中及び産後の危険兆候、産前産後健診の重要性、家族計画の重要性などに関する保健教育を、合計28回実施した。翌月の予定を両者で確認しながら次の活動日を決めていったことで、継続した啓発活動が可能となった。妊婦以外の若者や男性の参加を積極的に呼びかけた結果、延べ284名の住民が参加した。

地域（管轄保健所）	実施回数	参加者数（延べ）
オコタル	5	57
スヤタル	5	57
サラディーノ	2*	35
バル・パライソ	2*	23
ポトレリージョス	7	51
プランシートス	3*	30
サン・イシドロ	4*	31
合計	28	284

※2020年11月にホンジュラスを襲ったハリケーン「エタ」・「イオタ」による被害の復旧作業（道路補修など）のため、中心地から遠いサラディーノ、バル・パライソ、プランシートス、サン・イシドロでは実施回数が少なくなった。

【5-4】伝統的産婆が妊産婦に対し啓発活動を行う。

研修終了後、伝統的産婆による妊婦への啓発活動が行われた。自分たちが説明する内容について、保健所からのフィードバックが欲しいという希望が寄せられ、4か所の保健所において合計5回実施され、合計39名の妊婦が妊娠・出産・産後における危険について産婆から教わる機会を得た。

地域（管轄保健所）	実施回数	参加者数（延べ）
サン・イシドロ	1	9
ポトレリージョス	1	5
オコタル	2	20
バル・パライソ	1	5
合計	5	39

(3) 達成された成果	本事業で達成された成果は以下の通りである。 <u>成果 1：保健所のサービス提供環境が改善する</u> 2つの指標とも達成した。保健所スタッフによると、現存していた旧型オートクレーブは使用中に火事になりかけたことがあるなど、正しく滅菌できているのか常に不安に思っていたとのことであったが、今回の導入により不安がなくなり、正しく滅菌された器具を使って適切なサービスを提供できるようになったことが確認されている。 (指標 1-1) テウパセンティ保健所において、滅菌作業にかかる時間が短縮される。 ＜達成＞ 実際にオートクレーブを利用するスタッフ2人に対するアンケートにより、設置前後で滅菌にかかる時間が約20分短縮できたことが確認できた。 (指標 1-2) プランシートス保健所において、1回の診察・処理にかかる時間が短縮される。 ＜達成＞ プランシートス保健所に勤務する看護師に対する洗面台設置後の評価アンケートの結果、診療介助時間が5分短縮できたことが確認された。手洗いの度にわざわざ建物の外に出る必要がなくなり、移動する距離が短くなったばかりでなく、新型コロナウイルス対策としても、頻繁に手を洗うことができるようになったとのコメントがあった。 <u>成果 2：保健所スタッフの能力が向上する</u> 3つの指標すべてを達成した。テウパセンティ保健所では、複数の医師が超音波検査に対応できるようになったことで、医師の負担軽減と、必要なサービスの提供につながっていることも確認できた。 (指標 2-1) 妊産婦・新生児緊急時対応に関する研修後の理解度が、70%以上の結果を得る。 ＜達成＞ 各研修後において90%以上の理解度が確認された。 ・ 1回目（母子死亡のホンジュラスにおける状況、発熱、高血圧、流産恐れ、出産遅れ、双子出産介助について、緊急時のリファーマの手順、産後健診及び新生児健診について） 事前テスト：76% 事後テスト：91%（計24人） ・ 2回目（妊婦合併法の症状と診断、新生児特有の呼吸器疾患の症状と診断、先天性奇形や敗血症について） 事前テスト：81% 事後テスト：100%（計24人） (指標 2-2) フォローアップ研修後の理解度が70%以上の結果を得る。 ＜達成＞ 超音波診断装置使用方法研修前後の理解度（画像診断の構造、解剖生理（骨盤）、胎児の発育、胎位や胎盤の異常、子宮外妊娠、多胎児に関する問い）は、研修前の55.9%から90.1%になった。
------------------------	---

(指標 2-3) 研修受講者全員が実技を習得している。

<達成>

妊産婦・新生児緊急時対応研修後、受講者 24 人のうち、確認できた 20 人全てが、妊婦健診・乳幼児健診に必要な基礎技術を 90%以上、習得していることが分かった。

超音波診断技術の習得に関しては、研修講師による実技テストを実施し、研修生が妊娠数週の測定、胎児の測定、出産予定日の算出、奇形や前置胎盤の有無、正しい記録と診断結果を説明できるかを確認した結果、7 人の受講者全員が合格した。

成果 3：対象村の保健ボランティアが育成される。

(指標 3-1) 保健ボランティア研修後の理解度が 70%以上の結果を得る。

<達成>

各ボランティア研修（ファースト・エイド、エコー診断の重要性、家族計画の重要性、産前健診の重要性）の前後にテストを実施し、理解度は研修前の平均 68.8%から 85.8%に上昇した。

成果 4：対象村の伝統的産婆が保健所と妊産婦の橋渡し役として育成される

(指標 4-1) 伝統的産婆が自宅分娩の危険性に関する質問に回答でき、分娩施設で出産すべき理由などについて十分に伝えることができる。

<達成>

全 6 回の各テーマにつき、毎回事前事後にテストを実施したところ、理解度は事前テスト平均では 79.0%、事後テストでは 92.4%と上昇した。また、改めて 1 月末～2 月にかけて 32 人の伝統的産婆に対し、妊婦の危険兆候、施設分娩の重要性、出産の兆候のある妊婦への正しい対応についてアンケートを実施したところ、理解度は平均 95.5%となり、理解が定着していることが確認された。なお、この間に伝統的産婆 1 人あたり平均 6.1 回（合計 209 人）の妊婦をリファールした。

成果 5：安全な周産期に関する妊産婦を中心とした地域住民の理解が深まる

(指標 5-1) 妊産婦および地域住民の周産期保健に関する理解度が 70%以上の結果を得る。

<達成>

1 月末～2 月にかけて、市内 8 か所の各地域から 3～4 名ずつ、合計 50 名の妊婦を対象に、妊婦の危険兆候、施設分娩、妊婦健診の回数など、周産期保健に関するアンケートを実施した結果、理解度は平均 78.4%だった。

【SDGs に該当する目標における成果】

本事業は、SDGs の「目標 3. すべての人に健康と福祉を」達成に貢献するべく、活動に取り組んだ。

3.1：2030 年までに、世界の妊産婦の死亡率を 10 万人当たり 70 人未満に削減する。

ホンジュラスでは、出産時または産後の胎盤遺残などによる出血多量が妊産婦の死亡要因として最も高い。本事業は、事前の危険兆候を察知する重要性、施設分娩の推進、緊急時の応急処置などに関する保健所スタッフ、保健ボランティア、伝統的産婆への研修を通

	じて、草の根レベルでの人材育成に貢献した。また、妊婦クラブでは住民の知識向上と妊婦同士の関わりや絆を深める取り組みを進め、産前産後健診および施設分娩に対する不安を取り除くよう努めた。 <u>3.2：全ての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指す。</u> 保健所スタッフを対象としたCONE研修は、新生児の正しい扱い方、緊急時の対応ができるようになることを目的として実施した。保健所スタッフの能力向上を図ることで、新生児死亡率の低下に寄与できたと考える。
(4) 持続発展性	1. 保健所の環境改善 ・テウパセンティ保健所に供与したオートクレーブは県保健事務所の所有物として登録され、日常の管理は同保健所のスタッフが責任を持って行っている。メンテナンスについても、1年間は購入店からの保証があるほか、その後も県保健事務所によって修理等がなされるシステムが存在する。 ・スヤタル保健所では、太陽光発電用バッテリーが供与されたことにより、電気代を心配することなく医療機器を使用できるようになり、必要な保健サービスを提供できる環境が整った。バッテリーの維持管理も保健所が責任を持つ。 2. 保健所スタッフの能力向上 ・妊産婦・新生児緊急時対応研修における保健所スタッフの理解度は90%を超えており、今後、日々の業務において実践を重ねることで、知識・技術の定着とスタッフ間での共有を通じて保健サービスの質の持続的な向上が十分期待できる。 ・奇形児や胎盤異常など、診断に迷うケースがある場合は、超音波診断装置使用方法研修で講師を担当した医師にSNSで画像を送る形で相談することができる。研修を通じて、まだ超音波検査の経験が浅い医師と経験豊かな医師との関係構築が進んだことで、事業対象地における的確な超音波検査サービスの継続が可能な体制を整えることができた。 3. 保健ボランティアの育成 ・本事業で育成した69人の保健ボランティアは、地域のために活動したいという意識が高く、研修の参加率も高い。また、妊婦をはじめとする地域住民の個別相談に積極的に応じたり、保健所にリファーしたりしており、今後も継続的な活動が期待できる。 4. 伝統的産婆の育成 ・研修を保健所で実施するなど、伝統的産婆と保健所との関係強化に努めた結果、伝統的産婆から保健所への妊婦リファー数が昨年より増えた。両者間のコミュニケーションが進み、信頼関係も持続され、リファー体制の確立と施設分娩の増加が今後も期待できる。 5. 安全な周産期に関する啓発活動 ・保健所による妊婦クラブの活動が定期的実施されるようになった。また、保健ボランティアと伝統的産婆は、携帯電話やインターネットによる情報収集が難しい山間部においても、周産期に関する正しい知識・情報を届けることに大きな役割を果たしており、妊婦や住民への保健教育・啓発活動を継続することに大きな意欲を示している。次年度事業においても、関係者間の一層の協力・連携を促進し、活動の定着を目指す。